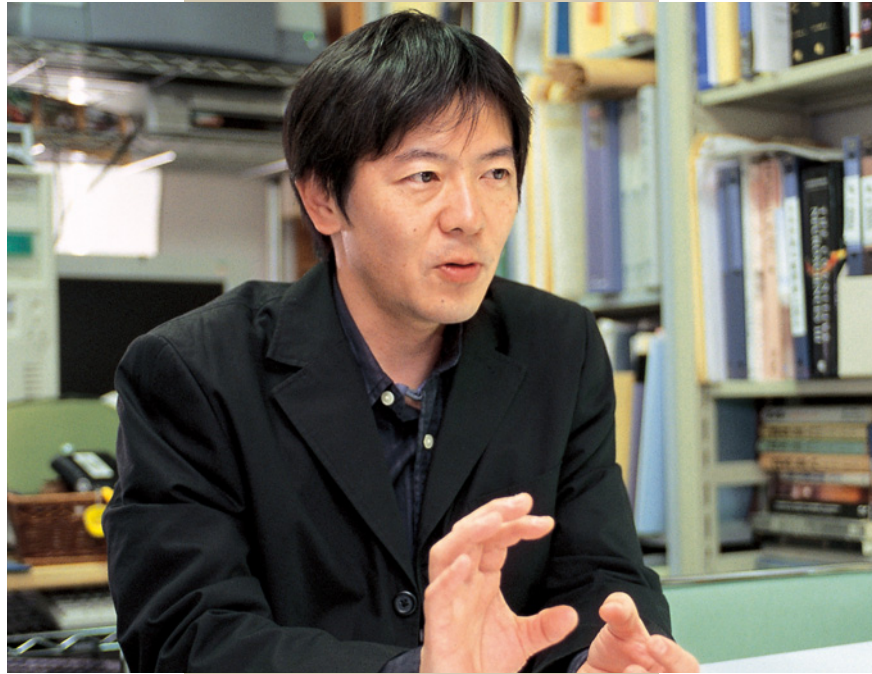


## 研究の窓

# 右脳と左脳を結ぶ脳梁の研究で 脳システムの解明に取り組む



コミュニケーション学部教授

かずひと

吉崎 一人

### 【学歴】

1984年3月 大阪教育大学教育学部小学校課程教育学科卒業  
1984年4月 名古屋大学教育学部学部研究生(1985年3月迄)  
1987年3月 名古屋大学教育学研究科博士課程前期課程修了  
1989年4月 名古屋大学教育学研究科博士課程後期課程退学  
1995年5月 名古屋大学博士(教育心理学)

### 【職歴】

1989年5月 名古屋大学教育学部教育心理学教室助手(1992年3月迄)  
1992年4月 愛知淑徳大学文学部専任講師  
1994年4月 愛知淑徳大学文学部助教授  
1996年8月 米国立イリノイ大学ベックマン研究所 訪問研究員(1997年8月迄)  
2000年4月 愛知淑徳大学コミュニケーション学部助教授  
2003年4月 愛知淑徳大学コミュニケーション学部教授(現在に至る)

### 【科学研究費補助金】

基盤研究(C)(2)  
「半球間統合作用に並びに干渉作用における両半球分配優位性」  
(2001年~2002年)研究代表者)  
基盤研究(C)(2)  
「左右半球間の干渉作用に関する認知神経心理学的検討」  
(2003年度~2005年度)研究代表者)

### 【最近の主要著作・研究業績リスト】 著書 論文

「D-CAT(注意機能スクリーニング検査)使用手引き」(コニオンプレス)2001(共著書)  
「学習経験と大脳半球機能差に関する研究」(風間書房)2002(単著書)  
“Stages of functional processing and the bihemispheric recognition of Japanese Kana script.” *Laterality*, vol.5, 2000(単著論文)  
“The effects of visual familiarity for words on inter-hemispheric cooperation for lexical processing.” *Cognitive Brain Research*, vol.12, 2001(単著論文)  
“Hemispheric metacontrol of a mental addition task in right- and left-handers.” *Journal of Human Environmental Studies*, vol. 1, 2003(共著論文)  
“生物的並びに非生物的手がかりが注意の空間方向定位に与える影響” *人間環境学*研究, vol.2, 2004(共著論文)  
“The effects of learning experience on bihemispheric processing.” *International Journal of Neuroscience*, vol.115, 2005(共著論文)



吉崎先生の専門の認知神経心理学は、ヒトの注意、記憶などのメカニズムをコンピュータや脳波計を用いた実験で科学的に解明していく学問で、日本での歴史はまだ20年弱という新しい分野です。「心理学は地道ですが客観的なデータを積み上げていくことで、新しい発見があるのが面白い」といいます。中でも10年前から右脳と左脳を結ぶ脳梁をテーマに、脳機能の解明を目指した研究を進めています。脳梁と併せて自閉症の問題にも取り組み、今年から厚生労働省科学研究費(こころの科学研究事業)にも参加。「自閉症と扁桃体の機能不全の関連性がわかってきていますが、他分野の研究者と協力することで成果を上げ、少しでも社会貢献できれば」との抱負を語っていただきました。

## 女

性と男性の行動の違いをわかりやすく示し世界中で大ベストセラーとなった「話を聞かない男、地図が読めない女」(アラン・ピーズ、バーバラ・ピーズ著、主婦の友社)はこの性差の背景には、「右脳と左脳の機能差」における性差があることを強調しています。学生時代からの私の興味はまさにこの領域にあたり

ます。ラテラリティ(左右半球の機能的非対称性)と呼ばれるこの領域は脳生理学、医学、心理学で取り組まれています。雑誌や広告にも使われている「右脳玩具」、「右脳思考」などは、左右半球の働きが全く違うかのような印象をもたらします。しかしこれまでの膨大なラテラリティ研究の知見によると、左右半球は課題

に対処する方法や相対的な得意不得意はあるものの、ほぼ同じような働きを持っています。

1) のような流れの中で、現在私が明らかにしたいのは、左右半球間の相互作用のメカニズムです。構造的にはほぼ対称である右半球と左半球は脳梁という太い神経線維で結ばれており、スムーズな情報交換がなされています。我々は日常生活において、目の前の課題を効率的に遂行するために、2つの半球が協力して対処していることは容易に想像できます。場合によっては、当面する課題に対して得意な半球が主導的に働き、もう一方の半球があまり関

与しなかったりしているのかもしれませんが、このような左右半球が1つとなった「脳システム」の機構の解明に取り組んでいるのです。これまでのラ

テリリテイ研究は、左右半球の差異ばかりに目をむけてきましたが、左右半球間の相互作用についてはあまり関心が払われていませんでした。生理学的に見て、「脳梁」の完成は10歳以降だといわれています。これは、進化的に見て脳梁の働きの重要性を示しているのかもしれませんが、そして脳梁の働きを明らかにすることが、ヒトの行動の特殊性を明らかにすることにつながるのかもしれませんが、



シールド防音室  
(注意や記憶課題の成績と同時に、  
脳の活動を測定しています)



シールド防音室  
(香りや音楽聴取でリラックスできるかを、脳波から推測しています)